

中長期目標 (学校ビジョン)	夢や希望に向かい 自分らしく輝いて たくましく生きる力を育む	今年度の 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の生活や可能性を広げる多様な学びの開発</li> <li>個々のニーズに応じたキャリア教育の充実</li> <li>安全・安心な教育活動の追求。教育環境の整備</li> <li>教職員の指導力・専門性向上</li> <li>地域連携の強化</li> <li>校内組織力の強化と業務改善</li> </ul>
-------------------	--------------------------------	--------------	--

《キーワード》 「前進」

年		度			当		初		( )月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策			
各学部の取組	小学部	○キャリア教育の「小学部でつけておきたい力」を意識した授業づくり	○障がいの程度が様々であり細かなケアや観察が必要である。 ○日々の生活や卒業後の生活について心配に感じている保護者も多く、情報提供したりするなどの関係づくりが重要となっている。 ○キャリア教育の視点で付きたい力と授業のねらいとのつながりについて、教職員だけでなく保護者とも情報を共有していく必要がある。 ○授業の充実については、学部の勉強会やグループ学習などで、他クラスの実践を知る機会を設けている。	・担任や学校がキャリア教育の「小学部でつけておきたい力」の視点で授業等のねらいについて保護者へ説明したり、福祉や進路に関する情報提供を行ったりして、保護者の7割以上が、知りたい情報を得ることができたと感じている。	・福祉や進路に関する情報について保護者のニーズを細かに聞き取り、適宜情報提供する。 ・クラスの実践を報告する勉強会を継続する。 ・機会を捉えながら他クラスに入って実践を参観できる場面を設定する。 ・他クラスの実践を参考にできるよう、廊下掲示や学級通信、学部通信などの掲示方法や通信の保管方法を工夫する。 ・学部主事や副学部主事、キャリア教育部が、学部会や勉強会で実践や事例をキャリア教育の視点で整理して紹介し、情報を共有できるようにする。					
	中学部	○自己実現に向けて、一人一人の実態や課題に応じた授業づくり	○正確な実態把握を行うためには、生徒を見取る力を高める必要がある。また、授業力向上のために、効果的なICT活用や教材・支援、授業展開の工夫などに継続して取り組む必要がある。 ○進路学習について、様々な状況に応じて学習内容を考え、計画的に実施することが必要である。また、生徒や保護者のニーズを聞き取り情報提供を行うことが必要である。	・職員、生徒の8割以上が、生徒自身で時間を意識し、自分で行動できることが増えたと感じている。(単一) ・職員、保護者の7割以上が、生徒の実態や生活年齢に応じた学習や適切な集団学習の工夫ができたと感じている。(重複)	・生徒を見取る力につながる学部研修を行う。また、定期的に単一会や重複会を実施し、複数の教師間で頻繁に生徒の情報交換を行い、生徒の実態把握や授業の充実に努める。 ・時間通りに授業を開始する意識を徹底し、事前準備や生徒への声かけに努める。 ・生徒一人一人の病気や障がいに応じた適切な支援を行うために、保護者・関係機関との連携を深める。また、進路指導主事と連携して、個々の実態を踏まえた進路学習(合同、個別)を計画し、実施する。					
	高等部	○生徒のキャリア発達に即した授業づくり	○現在できていることを継続しながら、生徒の変容に着目した授業改善の評価をし、さらなる改善に努める必要がある。	○キャリア発達の視点で授業・体験活動等の工夫・改善を行い、生徒の学びを促進しようとしている。	・キャリア発達、生徒一人一人のキャリア教育目標について共通理解をする機会を設ける。 ・単一会、重複会や子どもを語る会等で情報交換を行い、生徒の実態把握や授業の充実(教材の工夫や体験・集団活動の工夫・ICTの活用)に務める。					
一人一人の生活や可能性を広げる多様な学びの開発	教務部	・年間計画の見直し、運用 ・個の学びをつなぐ授業づくり	○昨年度のままのプロジェクト、教務部会の中で、個別の教育支援計画等の様式改訂にむけて協議し、素案を作成した。運用、手順等については検討が必要である。 ○個の学びをつなぐ個別の指導計画と年間指導計画等について検討が必要である。	・個別の教育支援計画等の様式が改善され、個の学びをつなぐ作成物が整理されて、次年度にむけて運用している。	・まなびのプロジェクトと連携し、現在の様式についての課題を洗い出し、年間計画の中に位置づけながら、計画的に取り組む内容について関係の分掌と検討、整理していく。 ・諸計画の見直しの必要性や改訂の方向性について研修をしたり、作成の手順について共通理解したりする機会を持つ。 ・進捗状況については、適宜掲示板等で全職員に見えるようにしていく。					
	まなびのプロジェクト		○児童生徒の個々の学びをつなげるための具体的な取り組みについて、個々の分掌だけでなく、学校全体で課題を共有し、取り組む必要がある。	・学校経営方針の重点事項について、半数程度の項目で改善がみられる。						
	教育企画部	多様な学び(行事等)の工夫	○作品展示やわくわくフェスタ等について、新型コロナ感染症の影響で、例年とは違った形での運営がなされ、職員も保護者も行事の実施に見通しが持ちにくい状況であった。 ○図書館の運営についても、同様に学級単位の利用を基本とするところであったが、図書館利用のルールについて職員への共通理解が不十分なところがあった。	・わくわくフェスタや作品展示等の実施した際の児童生徒の満足度が7割以上ある。	・わくわくフェスタは、複数の実施形態を検討の上、形態決定する時期を定め、職員、保護者に事前に周知する。実施については、最大限多くの保護者や児童生徒が参加できる形態を検討する。 ・作品展示については、WEBを活用し、新型コロナ感染症の影響を受けにくい形で実施する。 ・図書館の運営については年度当初の職員会や掲示板等を活用して、利用のルールを周知する。					
情報教育部	ICT機器を活用した学習指導の工夫	○ICT機器が整備されており、視線入力装置に関しては、利用のニーズも高い。その他のICT機器や、iPadのアプリなどについては、使用頻度、使用状況が職員間でかたよりがある。	・ICT機器やアプリの利便性、実用性が広まり職員がICT機器を活用している(新しい使い方をしている) ・ICT機器を活用した授業を8割以上の教員ができる。(評価基準を示したアンケート用紙を年度末に配布する。)	・ICT機器の活用事例を教職員共有の掲示板にあげ、共有する。 ・ICT機器が活用しやすい環境整備と支援体制に努める。 ・ICTサポート支援事業との連携を密にし、活用する。						
キャリア教育部	・キャリア教育の推進	○コロナウイルス感染症に対応した職場体験・施設利用体験の実施方法を検討し、準備を進める必要がある。 ○本校のキャリア教育の基本的な考え方について全職員で理解するために、各学部で教職員研修を行っている。 ○進路説明会や進路座談会を持ち、保護者へ進路に関する情報提供を実施している。	・進路の流れやキャリア教育・人権教育の基本的な考え方について教職員で共通理解し、実態に応じた目標を意識して指導をしている。 ・卒業生の情報、福祉サービスの状況等、進路・キャリア教育に関する情報発信に努め、必要な情報を保護者や生徒に還元している。	・校内研修(全体、学部等)を2回以上計画し、進路、キャリア教育、人権教育について教職員の共通理解を深める。 ・教職員、保護者への情報提供の方法を整理し、外部機関や支援部と連携して該当生徒と保護者へ必要な情報が正確に伝わるよう工夫する。						

安全安心な教育活動の追求環境の整備	保健安全部	○児童生徒が安全に快適に学校生活を送ることができる環境整備と体制づくり	○ヒヤリハット事例を掲示板で迅速に報告したり、学部会で注意勧告したりしたことにより、教職員の危機管理意識が高まった。 ○安全で健康的な学校生活を送ることができるように、救急ウィークで課題を取り上げたり、感染予防対策についての周知徹底を行っていくことが必要である。 ○昨年度も新型コロナウイルス感染予防の為、全校一斉での訓練ができなかったため、一時避難、児童生徒の心のケア等の対応は十分ではなく、安全な避難ができるように総務や各委員会、防災委員会等での十分な連携が必要である。	・個に応じた緊急救急体制が学級・学部・学校で共通理解され、危機管理意識を持ち、環境や体制が整備されている。 ・災害時の避難経路や場所、児童生徒の引き渡し等、救急体制が確立している。 ・防犯体制が確立されている。 ・教職員と看護師の双方がそれぞれの専門性を発揮して、児童生徒の成長・発達を最大限に促すことができている。	・学部会や掲示板活用でのヒヤリハット事例の取り上げを継続し、詳細を分析しながら事故防止の徹底を行う。 ・感染予防対策、研修や各種訓練、救急・防災ウィーク等での課題を取り上げたりして、安全面・健康面に留意した対応を行う。 ・防災対策については、総務部と連携を深め、業務分担しながら、災害に備えた環境を整えていく。 ・教職員と看護師が同じ目標に向かって支援できるよう、個人シートの内容や活用方法を検討する。 ・学部会への参加や学校生活の中で教職員と看護師がコミュニケーションを図り、積極的に情報交換を行う。			
	教職員の指導力専門性の向上	自立活動部	・研修の計画的な実施、授業力向上	・肢体不自由・病弱教育の基礎的な知識や実技について全職員で毎年確認するとともに、アンケートを参考に実践に結びつきやすいテーマをお役立ち勉強会等を活用して計画的に研修している。 ・経験年数や担当する児童・生徒の実態が異なるため、個々の専門性は様々である。基礎的な知識を押さえるとともに、身体面や認知面の指導等、職員の専門性向上を引き続き図る必要がある。また、教材・教具の活用の仕方等、職員間で情報を共有する機会が少ない。	・自立活動通信「MANABI」を8割以上の職員が読み、日々の実践に役立つ内容だと感じている。  ・主催した各種研修会の内容が、教職員にとって日々の授業実践に役立ち、専門性の向上につながったと感じている。(7割以上)	・「MANABI」に連載ミニコラムのページを作り、教材・教具に関する情報や身体面・認知面の指導につながるような情報を端的にイラストや写真等を交え、わかりやすく伝える。 ・「MANABI」の見どころを紹介する。 ・研修会後にアンケートを実施し、感想や要望をもとに次回の研修へつなげていく。 ・15～30分以内の有志によるミニ研修を行い、自立活動に関する専門的な知識を教職員に紹介していくとともに、自立活動部員が研修を行うことで、専門性を高めていく。		
		支援部	・校内支援の強化	○協力体制が十分でなく担任が悩み事を抱える傾向にあった。 ○対応が対蹠的であり、予防的な対応になっていなかった。 ○会議を開くことイコール問題解決にはなっていないかった。 ○SSWの活用について、単発の利用になっていた。	・相談が一次支援段階での問題解決がなされ、各種会議の開催が最低限に抑えられている。(前年度比で評価) ・SSWの定期的な来校とSSWが同席した保護者面談の件数が増加する。(前年度比評価)	・予防的な対応を実施していく。 ・課題の早期解決に向け校内支援主任や学部の校内支援担当が積極的に各クラスの担任とコミュニケーションをとる。 ・二次支援は支援会議やサポート会議等とし、実施の際には参加者の役割や目的等について事前に確認をする。 ・職員の指導支援の参考となる研修を短時間設ける。動画も活用し空いている時間に見ることができるようにする。 ・SSW、SC等の業務内容や活用について職員に周知し、適切なタイミングで担任等とつなげる。		
地域連携の強化	総務部	・地域連携	○防災等、地域との連携を深める必要がある。	・学校運営協議会の中で防災体制等、地域との連携について議論され、問題点と課題に対する取り組みが職員間で共有されている。	・地域連携について学校運営協議会等で検討し、その内容について、職員に周知する。 ・解消が難しい課題については、複数年で取り組む計画を検討する。			
	支援部	・センター的機能	・地域の学校の求めに応じて、リモートを活用しながら相談活動を行った。1回の教育相談をきっかけに複数回相談を継続したケースもあるが、単発で次につながらないケースもあった。 ・研修会の中に情報交換の場を設けることで、参加者が日頃の悩みや困り感を出し合い相談しているが、その後の教育相談にはつながりにくい。	・地域の学校のニーズに応じた教育相談、その後のフォローを行っている。	・東部の肢体不自由特別支援学級、東・中部の病弱・身体・虚弱特別支援学級のClassroomを作成してつながりを持ち、いつでも相談できる体制づくりをする。 ・ニーズに応じて教育相談を行い、その後のフォローを定期的に行う。			
校内組織力の強化と業務改善	総務部	・業務改善 担任の文書作成に関する業務を見直す。 教材教具の管理方法について見直す。	○担任は、様々な文書を作成することに多くの時間がかかっている。 ○教材教具のより利用しやすい管理方法を工夫する必要がある。	・文書作成に関する連絡や業務方法が改善されたと職員の60%が感じている。 ・教材教具の管理が改善されたと職員の60%が感じている。	・文書作成に関し、「作成の目的」「作成時期」「記入例」「保存・提出方法」を明確にし提案する。 ・文書データの保存フォルダを整理し、「とりせつ」にリンクする。 ・教材教具の保管先や貸し出しルールを明確にして職員に周知する。			
	事務部	業務改善・環境整備 倉庫・書庫等の整理整頓を行う。	○倉庫に経年劣化したものや破損したものが長年放置されている。 ○物品等が適切に管理されていない。	・倉庫等の整理整頓を行い管理しやすい環境にする。 ・その環境を維持する。	・倉庫等の整理整頓を行い不用物品は廃棄する。 ・倉庫の中に何を保管管理しているか分かるように表示する。 ・教職員に倉庫・物品の使い方を周知する。			

評価基準 A:十分達成 B概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し  
〔100%〕〔80%程度〕〔60%程度〕〔40%程度〕〔30%以下〕